

Newsletter

JAPAN SOCIETY OF EDUCATIONAL INFORMATION

日本教育情報学会

NO. 188 2024. 2. 22

日本教育情報学会 運営本部事務局

〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘 4 丁目 698-1

大阪教育大学 理数情報教育系 理数情報部門 若杉研究室

E-mail: jsei@jsei.jp <http://jsei.jp/home/>

—— 日本教育情報学会 第 40 回年会 ——

開催日：2024 年 8 月 24 日（土）・25 日（日）

テーマ：AI/DX 時代の教育情報学を考える

—「近未来」の学びの姿とその本質—

今夏に開催される年会は、40 回を数え、ひとつの節目にあたる。そこで、この 10 年を振り返りつつ、次の 10 年——いわば近未来——を見据えた「学び」の在り方について考える機会としたい。

ここ数回の年会テーマを見てもわかるとおり、「AI」「DX」は教育（学）における重要なキーワードである。「教育と情報」について広く扱う教育情報学にとって、「情報」に関わる両者は、現在および今後の教育について論じるにあたって外せないものといえよう。

しかしながら、時代の変化を追うばかりでは、学問あるいは学会としての役割は果たせない。社会や技術がどんなに変わっていかうとも、人間が学ぶことの本質は変わるものではないからである。では、その本質とは何か——いまだからこそ、あらためて問われるべきではないだろうか。

AI や DX に象徴されるとおり、ICT を基盤とする「情報化」がいつそう進むなかで、「学び」について、近未来の姿を見据えつつ、その本質を探究していくことは容易ではない。しかしながら、教育情報学あるいは教育情報学会の「よさ」は、多様な立場や視点、関心と経験、方法と知見を持った研究者——ここではもちろん実践者を含めている——が集まり、議論できるところにある。今回の年会は、まさにその「よさ」を活かしたものとなることを願って、標記テーマを設定した。

いささか想いの先走った文章となったかもしれないが、テーマに込めた願いを記した。久しぶりの東京開催となる。幸い、会場は、鉄道でも航空機でも便利な場所にある。研究会がリニューアルして初めての年会でもある。多くの学会員——これを機会に入会する皆さんを含めて——に渋谷に足を運んでいただきたい。活発な議論がなされることを期待するとともに、年会の運営にあたってご理解、ご協力をお願いしてあいさつにかえたい。

第 40 回年会実行委員長 野末 俊比古（青山学院大学）

開催概要

- ・開催日：2024年8月24日（土）・25日（日）
- ・会場：青山学院大学（青山キャンパス）
〒150-8355 東京都渋谷区渋谷 4-4-25
<https://www.aoyama.ac.jp/>
- ・事務局：日本教育情報学会第40回年会実行委員会
〒150-8355 東京都渋谷区渋谷 4-4-25
青山学院大学教育人間科学部教育学科野末研究室内
03-3409-7906（教育学科合同研究室）
- ・主催：日本教育情報学会
- ・後援：東京都教育委員会、渋谷区教育委員会（いずれも申請予定）
- ・年会ウェブページ：<http://jsei-nenkai.jp/>

開催内容・時程

1日目 8月24日（土）		2日目 8月25日（日）	
10:00～12:00	課題研究発表	9:30～12:00	課題研究発表 一般研究発表
12:00～13:00	昼食・休憩 理事会・評議員会	12:00～13:00	昼食・休憩
13:15～13:45	総会・学会賞表彰式	13:00～16:00	一般研究発表 ※1セッションのみオンラインあり
13:45～14:15	研究会活動報告		
14:30～15:30	基調講演		
15:45～17:45	シンポジウム		
18:00～（予定）	懇親会（予定）		

※上記は現時点の予定です。変更が生じる場合がありますので、次号ニューズレターおよび年会ウェブページでご確認ください。

開催方式

- ・対面での発表方式を予定しています。ただし、一部についてオンライン方式で実施することを検討中です。
- ・新型コロナウイルス感染症流行などの影響により、開催方式が変更となる可能性があります（オンライン方式など）。
- ・懇親会開催の有無などを含め、詳細については、次号のニューズレター刊行までに決定予定です。

【1】基調講演（8月24日（土）14:30～15:30）

教育と情報をめぐる「これまで」と「これから」（仮題）

趣旨

教育と情報について研究する教育情報学の特色は、その幅広さにある。基調講演では、本大会の趣旨を踏まえ、俯瞰的な視点から、教育情報学の「これまで」を振り返り、「これから」を見据えることで、その現在地を知る機会としたい。講演者および司会者は現在、調整中である。（テーマ・趣旨は現時点の予定です。）

【2】シンポジウム（8月24日（土）15:45～17:45）

「近未来」の学びの姿を探る ―AI/DX時代の教育情報学―

趣旨

本シンポジウムでは、本大会の趣旨を踏まえ、AIやDXをキーワードとしつつ、近未来の学びの姿について考えていく。教育情報学（会）の「よさ」を活かして、多様な観点から議論を深めていきたい。パネリストおよびコーディネーターは現在、調整中である。（テーマ・趣旨は現時点の予定です。）

【3】課題研究（8月24日（土）・25日（日）午前中）

2024年度、研究会がリニューアルされました。今回が新研究会になって迎える初めての年会です。以下、各研究会が担当する課題研究の概要とともに、会長挨拶を掲載します。なお、課題研究の発表申込については【5】を参照してください。

■教育資料研究会

テーマ：これからの時代の教育資料の構築と活用について

コーディネーター：齋藤 陽子（岐阜女子大学）
長谷川 春生（富山大学）
又吉 斎（沖縄女子短期大学）

趣旨

教育DXによって教育手法が大きく変化しており、これから社会で活躍していく児童生徒の学びの在り方も変わろうとしている。特に、情報を分析して活用する方法は大きく変革を遂げており、個別最適な学びと協働的な学びを支援するために、教育情報が利用者によって扱い方が異なるのではなく、交換、蓄積、分析の方法が共通化するように考える必要がある。

また、これまで構築されている教育資料は未来の教育を考える上で貴重な存在であることは言うまでもない。さまざまな教育資料をどのように構築すれば良いか、また、大きく変わるであろう新しい教育の中でどのように活用すればいいかを考えてみたい。

研究会会長挨拶

本研究会では、これら教育情報の効果的な活用方法を実際の教育場面の中で考察していくことを中心にして検討していく。多くの会員に積極的な発表を求めたい。これらからの教育に求められる「個別最適化された学び」「創造性を育む学び」を実現するためには「学び」について、その方法や内容の面から深く追究することが不可欠だと考えます。これまでに蓄積されてきた教育資料、特に学びに必要な学習者のための資料の在り方や学びから得られた情報をどのように次の学びへ活用するのか等の観点から幅広く議論したいと願っています。年間2回の研究会を開催して、多くの皆様と本主旨に沿った研究発表、議論を行いたいと思います。

成瀬 喜則（富山大学）

■特別支援教育 AT 研究会

テーマ：特別支援教育の「近未来」の学びの姿とその本質

コーディネーター：太田 容次（京都ノートルダム女子大学）

小川 修史（兵庫教育大学）

趣旨

本課題研究では、特別支援教育の「近未来」の学びの姿を、参会者の研究発表から考えたい。第40回年会テーマ・概要に示されているように、AIの発展やDX化、さらには新たな学びの価値観の創造などが様々な場で言われている。そこで、これまで特別支援教育における教育情報として蓄積されてきた教育実践や研究などから、AI/DX時代、すなわち「近未来」の特別支援教育について、「合理的配慮（国連：障害者の権利に関する条約に準拠）」におけるICT活用を含む学びを対象に、学びそのものが進化・発展していくものやその本質的は変わらないものがあるかと考えられる。本課題研究では特別支援教育の「近未来」の学びの姿とその本質について、参会者と共に研究発表を基に考えたい。

研究会会長挨拶

特別支援教育 AT 研究会では、特別支援教育におけるICT活用、とりわけAssistive Technology (AT) について、障害のある児童生徒に対する「合理的配慮（国連：障害者の権利に関する条約に準拠）」におけるICT活用について、開発・実践・研究を行います。具体的には、Facebook上の研究会において常時情報交換を行うとともに、夏の学会年会の他、年度末に実施する「特別支援教育 AT 研究会（研究会年会）」や各都道府県で実施されるICT活用研究会においてその成果の報告・交流を行います。

太田 容次（京都ノートルダム女子大学）

■プログラミング教育研究会

テーマ：AI&DX時代のプログラミング教育の在り方

コーディネーター：山本 利一（埼玉大学）

小熊 良一（群馬大学）

趣旨

AIリテラシーに関する指針が示され、時代は新しいステージに向かっている。プログラミング教育研究会では、各種発達段階におけるプログラミング教育の実践事例を収集すると共に、その効果を幅広く発信したいと考えています。昨年度の年会では、大妻女大学 本郷健教授（本会副会長）より、プログラミング教育の効果を脳科学の観点から特別講演を頂きました。プログラミング教育の効果を科学的に立証する研究提案は、学校教育におけるプログラミング教育の必要性を社会に大きくPRできたと思います。本会では、このような基礎研究と教育現場での実践研究を広く募集したいと思います。

研究会会長挨拶

本年度は、AI&DX時代の学びと多様化を受け、「AIを学ぶためのプログラミング教育」、「プログラミング教育の効果とその測定方法」、「具体的な実践例と学習効果を上げる工夫」など、多くの先生方にご提案いただければと思います。教育のグローバル化やAI&DXなど情報が飛躍的に増加している予測困難な時代を児童・生徒が生き抜くためのプログラミング教育について、協議を深めていくことができると考えております。

山本 利一（埼玉大学）

■教育技術研究会

テーマ：学校における「近未来」の学びの姿とその本質

コーディネーター：佐藤 典子（甲子園大学）

治京 玉記（奈良工業高等専門学校）

趣旨

近年様々な分野でデジタル化が推進され、社会全体として目覚ましく AI が発展しており、DX 化が進展しています。そして、学校においてもデジタル技術を活用する事が求められています。すべての学習者の可能性を引き出すためには、DX 化を通して「個別最適化の学び」と「協同的な学び」が実現すると考えられています。コロナウイルス感染拡大によって学校においてもデジタル化が促進されましたが、コロナウイルス感染収束後にどのような姿が理想的なのか考える時期となっています。フィジカル空間とサイバー空間がいかにして融合していくのか、考える必要があります。「誰もが、いつでもどこからでも、誰とでも、自分らしく学べる社会」を実現するためには、学校における授業技術・教材開発の工夫が必要と言えます。学際的な教育研究により得られた知見を基盤に、実践と理論の融合を目指し、「近未来」の学びがどのような考え方のもと、どのようなものになっていくのか議論を深めたいと考えています。

研究会会長挨拶

教育技術研究会会長をさせていただきます甲子園大学の佐藤典子と申します。令和4年度まで教職開発研究会として活動させていただきましたが、研究会の趣旨に沿った名称にし、更に充実した活動を目指していく事になりました。学校においては、授業技術・教材開発の工夫によって「豊かな教育情報」がもたらされると考えられるので、教職を目指す学生が履修する教職課程の授業科目の充実・工夫、さらには現職教員の指導力向上の方策などについて検討する必要があります。教育技術研究会では、幅広い校種、教科における授業技術・教材開発等の教育技術について検討し、議論を深める活動を行っていきたいと考えております。

佐藤 典子（甲子園大学）

■グローバル教育研究会

テーマ：AI時代における教育・研究のグローバル化の在り方を模索する
—「近未来」を見据えたグローバル人材育成に向けて—

コーディネーター：清水 義彦（富山県立大学）
陳 那森（関西国際大学）

趣旨

グローバル教育研究会では、これまでの国際交流研究会同様、1.グローバル人材育成の在り方・教育手法研究、2.日本国内での留学生教育や海外からの人材の育成等の研究、3.日本教育情報学会における海外との学術交流や推進していく上での諸問題、課題の解決策の議論などを推進している。国際的な共同プロジェクトを視野に入れ、国内外の教育機関や研究機関、企業との連携を重視し、異なる専門領域の専門家が協力して問題にアプローチするプラットフォームを構築する。今回は「近未来」に焦点を当て、AI時代における国内外のグローバル人材の育成に向けた研究、教育実践、連携の在り方を多角的な視点で検討する。若者が柔軟かつ効果的な学びの環境にアクセスできる状況に応じた適切な戦略や枠組みを提案し、未来のグローバルリーダーや専門家が必要なスキル・知識・マインドを獲得できるような環境を構築するための手段を模索する時空を超えた活発な議論を目指す。

研究会会長挨拶

グローバル教育研究会は、国際交流研究会の趣旨を継承し、世界中の研究者、教育現場の教員、企業人、そして若者が集い、垣根を超えたさらなる交流の場を創出します。2024年に中国・広州で開催した研究会例会をはじめこれまで同様、1.海外との学術交流やグローバル人材育成の在り方等に関する研究活動、2.世界中の企業人、研究者、若者とのヒューマンネットワークを培う場の創出の役割を果たしていきます。ICT技術の急速な進歩、新型感染症など社会を揺るがすような事象にも即応するスキルとマインドを兼ね備えた人材育成のプラットフォーム構築に向けた議論・研究を進めていきたいと思っております。ぜひ、ご参加ください。

清水 義彦（富山県立大学）

■ デジタルアーカイブ研究会

テーマ：デジタルアーカイブによる多様な学び

コーディネーター：井上 透（岐阜女子大学）

前川 道博（長野大学）

趣旨

社会のデジタル化により進展しつつある知識循環型社会の諸課題に着目し、DX化により社会教育、生涯学習、学校教育がどう変わるか、個人の知の深化、新たな知の探究をどう図るか、ジャパンサーチやEUのヨーロッパーナ等の分野横断統合ポータルをはじめ、デジタルアーカイブが教育・学習にどう役立つかを探究する。博物館、図書館等の社会教育施設においては、先人が育んだ地域の集合知である地域資料のデジタルアーカイブ化やその活用策、学校教育においては主体的で探究的な学びの情報源となる地域資料デジタルアーカイブの活用や、調べ学習、キュレーション学習の実践、MALUI（博物館、文書館、図書館、大学、産業）連携などが課題となろう。旧来の教育環境、学習環境にとらわれることなく、学びは今後より多様化していくものと思われる。デジタルアーカイブにより教育・学習をどうイノベートしていけるかを考えたい。

研究会会長挨拶

著作権法の改正による授業目的公衆送信制度の導入、国会図書館の個人向けデジタル化絶版資料送信サービスの開始、図書館等による図書館資料のメール送信開始、博物館法改正による博物館事業への資料デジタルアーカイブ化の追加など、教育情報の蓄積などデジタルアーカイブ化を前提とした知識循環型社会への対応が求められています。残念ながら、デジタルアーカイブが教育・学習にどう役立つかを探究する機運が学会内で高まっているとは言い難い状況です。社会教育においては、地域の集合知である地域資料のデジタルアーカイブ化と活用、学校教育においては主体的で探究的な学びの情報源となる地域資料デジタルアーカイブの活用や、調べ学習・キュレーション学習の実践、MALUI（博物館、文書館、図書館、大学、産業）連携などが課題になっています。旧来の縦割りによる教育テーマにとらわれることなく、デジタルアーカイブを通じて教育・学習をどうイノベートしていけるかを皆さんと考えたい。

井上 透（岐阜女子大学）

■ICT 活用研究会

テーマ：「近未来」の学びを支える ICT を活用した教育

コーディネーター：河野 敏行（岡山理科大学）
鍋谷 正尉（渋谷区立千駄ヶ谷小学校）

趣旨

AI/DX 時代における教育を支えるために、ICT を最大限に活用し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取り組みについて議論する。そのために、以下のテーマを中心の議論・開発を行い、教育者の意識と技術を高めていくことをテーマとする。

1. 全ての学習者に向けた教育サポートシステムおよび教材の開発
2. 1人1台時代の学習を支える学校や授業の在り方についての研究
3. ICT の活用促進のための具体的な学習環境や教材の開発
4. プログラミング思考力、創造的能力、AI リテラシーを養う教育や授業の開発
5. ライフスキル（非認知能力）を育てる PBL や STEAM 教育を活かしたカリキュラムの開発
6. 主体的に生きる学習者のためのデジタルシティズンシップ教育
7. 生涯を通して学び続けるための ICT 活用

研究会会長挨拶

ICT 活用研究会は継続しての立ち上げとなります。

単純に ICT を用いれば良いとか、AI を用いたとか DX したという地点にとどまらず、AI そして DX の礎となる ICT をどのように活かした教育を行うのかということに着眼を置き、研究を深めたいと思います。また、これからの教育の在り方を具体的に、ICT を活用する中で議論を行い、研究を進めていきたいと考えています。その実現のためには教師側の ICT に関するスキルアップが必要となります。各個人の研究のみにとどまらず、会員相互が定期的な研究会を行うことで、情報を共有していきたいと思っております。毎月 1 回の定例会はオンラインを含めての開催をしておりますので、気軽に参加をお願いしたいと思います。

河野 敏行（岡山理科大学）

■IR 活用研究会

テーマ：AI/DX 時代の大学を支える IR の探求

コーディネーター：白鳥 成彦（嘉悦大学）
今井 匠太郎（東京工業大学）

趣旨

近年のデジタル環境は急速に変化し、これまでの常識は覆され、先の予測ができない時代と言われている。このような急激な変化の中、高等教育機関では、教育・研究の新たな価値創造が求められている。変化を求められる環境においては、機関が行なってきた様々な活動を情報に基づいて評価し、素早い意思決定を必要とする。IR はこのような意思決定を支援する活動であり、変化を求められる時にこそ必要となる。本研究会ではそれぞれの高等教育機関における IR の事例や知見を共有し、AI/DX 時代の学びを支える組織内資源配分、計画立案、大学評価、内部質保証といった組織支援のあり方を議論し、各組織における IR 活動の活性化、効率化を目指す。また、AI や DX そのものも IR に多大な影響を与えるものと位置付け、IR における AI の活用や IR 推進のための DX の取り組みといった内容も扱う。

研究会会長挨拶

IR は大学における意思決定を支援する組織のため、個々の大学・組織によって活動の中身は大きく異なります。昨今の AI/DX 時代、大学の中では大きな変化が起きているところも多く、その変化が自組織にとってよいものとなっているところも多いでしょう。しかしながら、AI/DX という言葉がひとり歩きして、組織によっては混乱したりしていることもよく聞きます。本研究会では、それぞれの大学で行ってきた IR のうまくいった事例、失敗した事例をとりまとめ、本研究会にて共有していただくことで、参加者が所属する組織で活用し、効率的・効果的な IR 組織に近づいていただければと思っております。

白鳥 成彦（嘉悦大学）

■「AI と教育」研究会

テーマ：AI と教育 ―生成 AI の指導と活用を中心に―

コーディネーター：加納 寛子（山形大学）
野末 俊比古（青山学院大学）

趣旨

教育・研究における生成 AI の適切な使用方法についての研究は、AI 技術の急速な発展と教育界でのその応用の拡大に伴い、重要性を増しています。本課題研究では、生成 AI を教育現場で効果的に利用するための指導方法に焦点を当てます。特に、倫理的検証と教育学的設計プロセスにおける人間中心のアプローチの必要性を探求し、発達段階に応じた教育的アプローチを検討します。また、学生の批判的思考能力の育成、AI 技術の理解と応用能力の向上、そして AI に関するリテラシー教育の推進などについても検討します。研究会としては、教育者・学習者を含めたすべての人々が生成 AI を学習過程に適切に統合し、学生の学習成果を最大化するための実践的な日本型生成 AI ガイドラインの構築を含め、「AI と教育」の在り方について提言していくことを目指します。

研究会会長挨拶

AI が急速に進展し、AI を専門としない人々の領域にも否応なく影響を及ぼしてきています。学校で禁止しても子どもたちは、スマホアプリで利用することでしょう。教育現場が教えることから逃避し、問題が起きてから後追いの教育を行うのは遅いと考えます。そのため、「AI と教育」研究会では、AI（人工知能）技術が教育に及ぼす影響を考え、子どもたちにどう教えていくのかについて議論します。適切なプロンプトの作成方法や、ハルシネーション（Hallucination）、トランスパレンシー（Transparency）、プライバシー（Privacy）など生成 AI を取り巻く問題を含め、AI に対応できる総合的な能力を育成するための教育方法や必要なツールの開発などを検討します。また、生成 AI に限らず、AI を活用したさまざまな取り組みについて実証的にアプローチしていきます。「AI と教育」の在り方について考察していきます。ふるってご参加ください。

加納 寛子（山形大学）

【5】研究発表申込募集（課題研究・一般研究）

(1) 研究発表申込資格

- ・第1発表者（当日発表を行う方）は、会員資格（正会員・学生会員）であることが必要となります。非会員の方は、発表申込までに学会運営本部事務局（jsei@jsei.jp）に申込み、入会登録手続きを行ってください。
- ・会員番号をお忘れの方は、郵送物の宛名ラベルに印字してある4ケタの数字が会員番号ですので、ご参照ください。なお、研究発表の申込みや発表原稿の提出時にも、会員番号が必要となります。

(2) 発表内容について

- ・「教育情報に関する研究」であれば特に内容は問いません。「教育情報」には「教育に関する情報」と「情報に関する教育」の両方を含みます。
- ・一般研究発表では、希望のセッションを下記より選択してください（第二希望まで選択）。ただし、発表申込状況によっては、希望に添えない場合がございます。
 - ・情報教育 ・教育方法 ・学習評価 ・教育実践
 - ・教科教育 ・教材開発 ・デジタルアーカイブ ・その他
 - ・オンライン発表（2日目午後）※オンライン発表以外は対面の予定
- ・キーワードは下記より2～3語を選択してください。キーワードは5語以内とし、下記より2～3語を選択し、それ以外は自由に設定してください。

IR、アクティブ・ラーニング、ESD、eラーニング、インターネット、AI、遠隔学習、学習管理、学習コンテンツ、学習支援、学習メディア、可視化、学校経営、カリキュラム開発、企業内教育、教育サービス、教育施策、教育情報システム、教育データ、教育評価、教育方法、教科教育、教師教育、高等教育、国際開発、社会教育、生涯学習、情報教育、情報検索、情報サービス、情報資源、情報処理教育、情報デザイン、情報文化、情報リテラシー、情報倫理、職能開発、初等教育、専門教育、地域連携、知的財産、中等教育、DX、データサイエンス、データベース、デジタルアーカイブ、デジタルコンテンツ、特別支援教育、図書館情報学、ネットワーク、ビッグデータ、ヒューマンインターフェース、プライバシー保護、プログラミング、メタデータ、メディア活用、メディアリテラシー、幼児教育

（五十音順）

(3) 発表申込方法に関するお願い

1. 発表申込方法

- ・第40回年会ウェブサイト（<http://jsei-nenkai.jp/>）の各種申込みの「発表申込フォーム」から、必要事項を入力していただき、お申込みください。
- ・年会ウェブサイト以外での受け付けおよび申込期限後のお申込みは受け付けることができませんの。
- ・申込後の申込内容変更については、年会ウェブサイトのお問い合わせからご連絡をお願いします。

2. 発表申込期間

2024年2月22日（木）～4月21日（日）

※例年より締切が早くなっておりますので、ご注意ください。

3. 申込完了メール

- ・ウェブ上の「発表申込フォーム」からのお申込みが完了すると、お申込み時のメールアドレスへ「発表申込み完了メール」が送信されます。
- ・申込完了後は「発表申込み完了メール」が届いていることをご確認ください。

4. 発表採否通知

- ・5月中旬（予定）に発表の採否をメールで連絡します。

5. 原稿作成

- ・発表採択の方には、原稿の執筆要項（Word形式ファイル）をお送りします。
- ・論文の原稿枚数は、課題研究は4枚、一般研究は2枚とします。

6. 原稿提出期間

2024年6月1日（土）～7月5日（金）

7. 課題研究に関する注意事項

- ・申込み時に、各研究会のテーマに沿って研究発表題目をつけてください。
- ・課題研究発表は、各研究会で調整し、テーマごとに担当コーディネーターが検討し、審査します。その結果、発表「否」となる場合もあることをあらかじめご了承ください。
- ・課題研究として発表できない場合でも、課題研究分を一般研究発表として発表していただくことがあります。
- ・第1発表者としての課題研究発表は、1人につき1件のみとします。ただし、年会実行委員会から特に依頼された場合は、この限りではありません。

8. 一般研究に関する注意事項

- ・第1発表者としての一般研究発表は、1人につき1件のみとします。
- ・発表等の時間は、発表10分、質疑4分、交代1分です。
- ・一般発表は学会員のみ発表可能です。

9. 発表申込フォームの書き方

- ・共同研究者は何人でもかまいません。
- ・概要はなるべく具体的に書いてください。
- ・キーワードは5語以内とします。上記(2)のキーワードから2～3語を選択し、それ以外は自由に設定してください。
- ・発表者の方へは、発表申込登録内容に関して問い合わせる場合がありますので、連絡先の変更が生じた際は、年会事務局までご連絡をお願いいたします。

10. 原稿提出フォームの書き方

- ・原稿は、執筆要綱に従って作成してください。
- ・PDF形式に変換後、原稿提出フォームからご提出ください。

11. 参加フォーム

- ・参加申込みの際には、参加費などの振込完了後、参加申込フォームより参加手続きを行ってください。

12. 発表会場

- ・会場で使用できる機器はプロジェクターのみです。
- ・パソコンは各自で持参してください。

【6】参加方法

(1) 参加申込期間・方法

- ・申込期間：6月1日(土)～8月2日(金)
- ・申込方法：次号ニューズレターで案内します

(2) 参加費用

- ・参加費、年会論文集代は下記のとおりです。

会員事前申込

参加費 3,000 円 論文集費 4,000 円 懇親会費 5,000 円

会員（当日）・非会員

参加費 4,000 円 論文集費 4,000 円 懇親会費 5,000 円

学生会員・後援関係教職員

参加費 無料（※） 論文集費 4,000 円 懇親会費 5,000 円

（※学生会員・後援関係教職員であっても発表者は参加費が必要です）

- ・支払方法につきましては、次号ニューズレターで案内します。

(3) 論文集の郵送申込について（年会に参加されない方）

- ・年会に参加されない方で、論文集を購入希望の場合は、論文集代をお振り込みのうえ、年会ウェブサイト内の「参加申込」にあります「論文集郵送申込フォーム」よりお申込みください。
- ・年会終了後に論文集を送付します。
- ・論文集：4,500 円（郵送費等を含む）

(4) 後援関係の皆様

- ・後援をいただいた教育委員会所属の教職員の参加費は無料とします。ただし、論文集を必要とされる方は、論文集費が必要です。
- ・新規の方の参加を歓迎します。

【7】 年会開催までのスケジュール

- ・発表申込期間 2024年2月22日(木)～4月21日(日)
- ・発表決定通知 2024年5月中旬頃
- ・原稿提出期間 2024年6月1日(土)～7月5日(金)
- ・参加申込期間 2024年6月1日(土)～8月2日(金)
- ・論文集申込期間 同上

【8】 広告掲載（協賛）募集

年会論文集用の広告を募集いたします。広告を掲載いただいた企業の方には、当日会場内ブースにて、無料で製品紹介および展示等をしていただくことが可能です。企業のPRや情報交換の場として大いにご活用いただければ幸いです。

詳細は以下の通りとなっております。会員の皆さまにおかれましては、お知り合いの関連企業にお声掛け頂き、多くの企業の方にご参加いただけるよう、ご紹介のほどよろしくお願いいたします。

広告掲載申込方法などは年会ウェブページにて告知します。その他に、ご質問がありましたら、年会ウェブページのお問い合わせからお願いします。

協賛（料金 ¥40,000）		
内容	論文集掲載広告（広告1）	
・展示（1ブース） ・広告1（論文集掲載） ・広告2（フライヤー配布）	色	1色（モノクロ）
	頁（寸法）	1/1頁（天地240mm×左右160mm）
	形式	Word, JPEG

日本教育情報学会 運営本部事務局

〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4丁目698-1
大阪教育大学 理数情報教育系 理数情報部門 若杉研究室
E-mail: jsei@jsei.jp HP: <http://jsei.jp/home/>